



めたばる

巻頭の辞

九州補給処長兼ねて目達原駐屯地司令

陸将補 竹内 綱太郎



4月駐屯地朝礼にて

若葉が初夏の日差しに輝く季節となりました。駐屯地は、3月25日、観桜のための一般開放を行いました。当日は、ソメイヨシノや河津桜など数百本の見頃を迎えた桜に加え、各種装備品展示等を行い、多くの方々に桜の名勝の地と兵站及び北部九州の陸上航空の拠点たる目達原駐屯地を楽しんで頂きました。

4月中旬には、株式会社佐賀銀行、東亜工機株式会社、株式会社ワイビーエム、玄海町役場の新入社員等の方々が駐屯地において隊内生活体験に参加され、我々自衛隊の日常生活や訓練を体験してもらい「隊内生活体験により、以前の自分より大きく成長できたと思う。」「体験前は怖いイメージがあり不安でしたが、丁寧に優しく接してくれたので、無事に終了し達成感を味わうことができた。」等成長の実感や感謝の言葉を沢山頂きました。

さて、目達原駐屯地にも春の定期異動により多くの隊員が全国各地の部隊から着隊し、新態勢となつて約3カ月が経過しました。新たな仲間となった隊員達も、今までそれぞれの部隊で培ってきた技術、知識、そして経験に裏付けられた知恵を発揮し、新年度の駐屯地運営に貢献しております。

目達原駐屯地は、本年度も全隊員一丸となり昼夜を問わず各種任務や訓練に励みつつ、各種行事や駐屯地への研修・訪問等を積極的に受け入れ、地域の皆様の期待に応えられる自衛隊、地域とともにある駐屯地であり続けられるよう尽力する所存でありますので、引き続き御理解、御協力の程よろしくお願い致します。

九州補給処兼ねて目達原駐屯地最先任上級曹長交代！



川原准尉 古賀准尉

新旧最先任で硬い握手！

最先任として、指揮官の耳目となり、常に熱意と愛情、厳格な姿勢をもって現況を把握し、時には勇気をもって意見具申して、指揮官の企図の確実な徹底に努める所存です。このため、これまで以上に自己の修練を怠らず、強い責任感・信頼感と人間的魅力を合わせもつ総合的な資質、能力を磨いてまいります。

「いまやらねば いつできる、俺がやらねば だれがやる。」との覚悟を持って、指揮官を補佐し、准曹士の育成に心血を注いでいきます。



第6代最先任上級曹長 准陸尉 川原 祐太郎

令和5年3月13日(月)、九州補給処兼ねて目達原駐屯地最先任上級曹長が交代し、古賀信雄准陸尉から九州補給処総務部川原祐太郎准陸尉が上番しました。

発行

令和5年5月
陸上自衛隊
目達原駐屯地
〒842-0032佐賀県神埼郡
吉野ヶ里町立野7-1
TEL.0952-52-2161



ツイッター



@JGSDF_METABARU
#目達原駐屯地

5月現在
約9,900人
フォロー中！

「フォロー」
「いいね」
お願いします。

「駐屯地ツイッター発信中」
目達原駐屯地隊員の訓練
行事・災害派遣情報など、
満載！是非ご覧下さい。

ホームページ



スポット ライト

目達原駐屯地は、3月25日(土)、観桜のための駐屯地一般開放を行いました。天気にも恵まれ、県内外から約2000名の方々が駐屯地を訪れて桜の近くで記念撮影や食事をしたりと、桜を満喫されていました。特に、限定200食の豚汁には長蛇の列ができ、1時間ほどでなくなりました。

駐屯地桜一般開放





号令をかける受験生(術科試験)

令和5年度前期 陸曹候補生等選抜第2次試験

九州補給処は、4月25日(火)から4月26日(水)の間、目達原駐屯地において、令和5年度前期陸曹候補生等選抜第2次試験を実施しました。

本試験は、第1次試験(筆記試験)を合格した5名の隊員が、術科試験(小部隊の基本的な指揮)、口述試験(個人面接)及び体力検定を受験し、選抜され、陸曹候補生課程へ入校できる資格を得るものであり、受験者はそれぞれ日頃の成果を精一杯発揮し、最後まで全力で試験を終えました。



全力疾走！(体力検定:3000m走)



九州補給処

隊内生活体験



基本教練体験(挙手の敬礼)



徒歩行進体験



体力測定(腕立て伏せ)



ヘリコプター誘導体験



匍匐前進体験



集合写真



記念式典

最先任上級曹長古賀隆伸准陸尉は、令和2年3月14日から令和5年3月13日まで、3年間の第5代最先任上級曹長として「規律厳正で精強な部隊・隊員の育成」を要望事項に揚げ、職務面においては、隊員個人の生の声をしっかりと聞き、一歩踏み込んだ心情把握に努め、各部隊の最先任上級曹長等と連携し、部隊行動の健全化を図る等、重要な役割を全うされました。



集合写真



隊長へ申告

西部方面後方支援隊

最先任上級曹長交代

西部方面後方支援隊は、令和5年2月4日(土)、20周年となる創隊記念行事を3年ぶりに開催しました。

記念行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参列部隊は、一次部隊長、二次部隊長及びその旗手に限定するとともに、一部の後方支援隊OB会、歴代指揮官及び歴代最先任上級曹長の方々の招待して、後方支援隊に対する理解と信頼の獲得を図りました。記念式典においては、目達原後方支援隊OB会長の久保様より祝辞を賜わるとともに、隊長の野口1佐からは、歴代部隊長及び隊員OBの方々に対するこれまでの感謝とこれから更なる高みを目指して時代の変化に対応しつつ任務完遂に邁進する決意を込めた式辞があり、厳粛に式が執り行われました。

また、祝賀会食では、隊員と招待者の方々との会話に花をさかせて更なる親睦を深め、本記念行事は盛会の内に終了しました。

西部方面後方支援隊

西部方面後方支援隊創隊20周年記念行事

第1 戦闘ヘリコプター隊

航空雑誌「Jウイング」取材対応



インタビュー風景（操縦士）



インタビュー風景（整備員）



集合写真



編隊飛行

第1戦闘ヘリコプター隊は、3月7日（火）から3月8日（水）の間、陸上自衛隊航空科唯一の戦闘ヘリコプターA-64Dを装備する部隊として、航空雑誌「Jウイング」の取材を受けました。取材間、第1戦闘ヘリコプター隊長をはじめ、操縦士及び整備員のインタビューや日々の訓練に邁進する様子、部隊全体の集合写真を撮影していただきました。今後、自衛隊に対する国民の皆様からの御理解が得られるように、引き続き戦闘ヘリコプター隊一丸となつて隊務に邁進してまいります。

西部方面ヘリコプター隊



航空機体験搭乗



航空機展示



鳥栖吹奏楽団による音楽演奏



VR体験コーナー

西部方面ヘリコプター隊創立記念行事

西部方面ヘリコプター隊は、令和5年3月5日（日）、目達原駐屯地において、創隊55周年記念行事を実施しました。当日は、天候にも恵まれ、航空機体験搭乗や航空機展示等のイベントを行いました。また、鳥栖吹奏楽団による音楽演奏や佐賀地方協力本部によるミニ制服・VR体験コーナー等の催しにより行事に花を添え、訪れた隊員のご家族やOBを始めとする協力者に好評を得ることができ、部隊に対する理解の促進及び協力機運の醸成を図ることができました。これまで西部方面ヘリコプター隊に対して御理解と御協力を頂いた皆様に深く感謝するとともに、引き続き歴史と伝統を継承しつつ、任務完遂に努めて参ります。

西部方面管制気象隊 第1 派遣気象隊

目達原TACAN運用開始！

西部方面管制気象隊第1派遣隊は、令和5年3月23日（木）、地上TACAN装置運用開始に伴い、目達原TACAN運用開始式を実施しました。目達原TACANは航空機に対し、距離及び方位情報を与えることで、悪天候下における航空機の運用をより安全かつ能率的に行えるものであり、地上TACAN装置の電源を第1派遣隊長が投入し、無事電波発射することを確認できました。第1派遣隊は、地上TACAN装置の能力を十分に発揮し、引き続き飛行部隊等の安全の確保及び任務達成のため、益々精進して参ります。



目達原TACAN運用開始「電源投入」



地上TACAN装置

※TACAN：無線航行陸上局

西部方面システム通信群本部中隊 映像写真小队 空中伝送班

被害状況を迅速に配信

空中伝送班は、令和5年3月15日（水）から3月16日（木）の間、宮崎県美里町で発生した山林火災の映像伝送任務に従事しました。平素から各種災害想定における被害状況に関する情報収集及び映像の配信について、西部方面ヘリコプター隊と協同連携した訓練を実施しており、今回の映像伝送任務においても速やかに現地上空へ推進することができました。現地では山林火災の被害状況及び消火状況を撮影するとともに、ナレーションを実施し、方面総監部等の状況判断に資する映像を配信しました。今後も平素から各種訓練に励み、映像伝送能力の向上に努めるとともに、関係部隊との連携を密にし、方面隊等の任務達成に寄与して参ります。

第4 飛行隊

飛行隊家族の日

第4飛行隊は、令和5年3月21日（火）春分の日、約4年ぶりに部隊と隊員家族との交流行事である「飛行隊家族の日」を実施しました。当日は、あいにくの天候にもかかわらず、隊員家族約80名が来隊され、部隊の概要説明の後、航空機展示、活動状況の写真展示及び家族との記念撮影等を実施し、隊員家族間の絆を深めるとともに飛行隊への理解を獲得し、飛行隊の任務遂行の資と得ることができました。



家族への部隊紹介



航空機展示



家族との記念撮影



活動状況の写真展示



お子さんへプレゼント



パパと輪投げ

第321 基地通信中隊

第1 回 中隊訓練

第321基地通信中隊は、令和5年4月18日（火）から4月20日（木）の間、目達原駐屯地において、第1回中隊訓練を実施しました。本訓練では、通信所警備に資する、特殊武器防護、警戒自衛戦闘、ガンハンドリング及び、駐屯地内におけるシステム通信保守に資する、障害対処等をそれぞれ演練し、総監訓練検閲受閲に向け、各種対処能力を向上させることができました。



警戒自衛戦闘訓練



ガンハンドリング訓練



[illegible]